グリーンボンド / グリーンボンド・プログラム
外部レビューフォーム

セクション1．基本情報

発行体名:	株式会社イチネンホールディングス
グリーンボンド又は フレームワークの名称	第4回無担保私募債
外部レビュー者名:	株式会社　日本格付研究所
本フォーム記入日:	2019年9月30日
レビュー公表日:	2019年9月30日

セクション 2．レビューの概要

レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則との適合性を確認した。：

- [X] 資金使途
- [X] 資金管理
- [X] プロジェクトの評価と選定プロセス
- [X] レポーティング

ROLE(S) OF Independent External REVIEW PROVIDER

- [ ] セカンドオピニオン
- [ ] 検証
- [ ] その他:
- [ ] 認証
- [X] スコアリング／格付け

注:複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

レビューのサマリー　及び　評価レポート全文へのURLリンク

イチネンホールディングスはイチネングループを統括する純粋持株会社である。強いグループ一体性のもと、自動車リース関連事業を中核とし、ケミカル事業やパーキング事業、機械工具販売事業、合成樹脂事業といった多岐にわたる事業領域を展開している。

イチネングループでは経営理念の一環として定めた企業倫理規範第6条において、「地球環境の保全に注力し、住み良い社会環境作りに貢献する」ことを掲げている。また、同じく経営理念の一環である企業行動基準6-1においては、地球環境をより良い状態に保全することが自らの義務であるとの自覚をもつとともに、この取り組みが重要な経営課題のひとつであると位置付けており、環境関連の法令を遵守するのはもちろんのこと、事業活動や提供する商品・サービスが地球全体の環境にできる限り負荷を与えないよう最大限の努力をするとしている。具体的な施策としては、認証取得したISO14001に基づく環境ガイドラインを実行するなかで、事業所内の省エネ・廃棄物削減等にとどまらず、リサイクルの徹底や環境配慮型商品の積極的な開発・拡販を推進している。

今回評価対象となる私募債の資金使途は、イチネングループの中核事業である自動車リース関連事業のうち、一定のCO2排出量基準を満たすハイブリッド車購入代金のリファイナンスである。JCRは対象となる購入車両全てが低炭素車両として国際的な要求を満たす水準にあり、CO2排出量削減に資することを確認した。また、イチネンホールディングスが環境に対して生じうる負の影響に対して適切な回避策または緩和策を講じており、このプロジェクトに伴って環境改善効果を上回るような環境への負の影響が発生する可能性が低いことを確認した。以上から、JCRは本評価対象の資金使途となるプロジェクトが環境改善効果を有すると評価している。

JCRは、本私募債の資金使途となるグリーンプロジェクトへの管理運営体制が確立されており、選定基準および資金管理の透明性が高いこと、イチネンホールディングスの経営陣が環境問題を重要度の高い優先課題として位置付けていることについても確認した。

以上より、本私募債についてJCRグリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性（資金使途）評価」を“g1”、「管理・運営・透明性評価」を“m1”とした。この結果、「JCRグリーンボンド評価」を“Green 1”とした。

本私募債はグリーンボンド原則 および環境省によるグリーンボンドガイドライン において求められる項目について基準を満たしていると考えられる。

評価レポート全文へのURLリンクは以下をご参照。
https://www.jcr.co.jp/greenfinance/

セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

1. 資金使途

本項目に係るコメント欄：

a.プロジェクトの環境改善効果について

i. 資金使途の 100%がリース用ハイブリッド車購入代金のリファイナンスであり、環境改善効果を有する。

ii. 資金使途の対象は、グリーンボンド原則または環境省のグリーンボンドガイドラインに定義されているグリーンプロジェクトのうち、「クリーンな運輸に関する事業」に該当する。

b. 環境に対する負の影響について

イチネンホールディングスは本私募債の資金使途による環境への負の影響として、リース車両の老朽化による廃棄物の増加を想定している。イチネンホールディングスはそうした想定のもと、①車両メンテナンス時のリビルト部品やリユースバッテリーの積極利用、②リースアップ車両のストックヤードにおける選別仕分け体制強化、③リースアップ車両の海外子会社を通じた再販売によるリユース促進といった環境負荷低減策を推進している。
JCRはイチネンホールディングスが環境に対して生じうる負の影響に対して、適切な回避策または緩和策を講じていると評価している。

GBPにおける資金使途の分類:

- [ ] 再生可能エネルギー
- [ ] エネルギー効率
- [ ] 汚染防止及び管理
- [ ] 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理
- [ ] 陸上及び水生生物の多様性の保全
- [X] クリーン輸送
- [ ] 持続可能な水資源および廃水管理
- [ ] 気候変動への対応
- [ ] 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス
- [ ] グリーンビルディング
- [ ] 発行時点では明らかでなかったが、現時点においてGBP分類に該当することが予想される、または、まだGBP分類に含まれていないが適格グリーンプロジェクト分野と思われるもの
- [ ] その他

GBP以外のタクソノミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

2. プロジェクトの評価と選定プロセス

本項目に係るコメント欄：

イチネンホールディングスは資金使途について、明確な環境面での目標、プロジェクトの選定基準およびプロセスを定めている。
当該事項は、JCRによる評価レポートの中で開示されている。

評価と選定

- [X] 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている
- [X] グリーンボンドの資金使途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている
- [X] 事業の評価と選定基準の概要が公表されている
- [X] 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている
- [X] 事業実施に伴うESGリスクの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている
- [ ] その他

責任及びアカウンタビリティに係る情報

- [ ] 評価・選定基準は外部からのアドヴァイスまたは検証を受けている
- [ ] その他
- [X] 社内で評価している

3. 調達資金の管理

本項目に係るコメント欄：

a. 本私募債で調達される資金はリース用ハイブリッド車の購入資金として調達した短期資金のリファイナンスに全額即時充当される予定であり、これ以外の目的に充当される予定はない。
b. 本私募債における資金調達はグループ資金管理規程に基づき、毎期首に取締役会で承認を受けた年度資金調達枠内で行われる。経理財務部長は必要に応じて自動車リース関連事業を担当する子会社（株式会社イチネン）に資金を貸与する。本私募債が償還されるまでの間、プロジェクトの対象となるリース用ハイブリッド車については、経理財務部財務課にて帳簿管理を行う。それらの貸付額と内容については半期毎に取締役会に結果報告を行い、承認を得る。
c. 本私募債で調達される資金の追跡管理については、その帳票類が監査法人による外部監査およびイチネンホールディングスの環境ガイドラインに基づく内部監査の対象となっている。資金調達に関する書類は永年保管対象となっているほか、その他帳票についても最低7年間保管予定であり、本私募債の償還までの期間、証拠となる文書等が管理される。
d. 本私募債で調達される資金はリース用ハイブリッド車の購入資金として調達した短期資金のリファイナンスに全額即時充当されるため、未充当資金は発生しない見込みである。また、投資家には未充当資金は発生しない見込みである旨が目論見書等で開示される予定である。仮に本私募債の償還期限までに対象車両の売却などによって対象資産残高が減少した場合でも、同等のCO_2排出量基準を満たすハイブリッド車を多数保有しているため、新たなハイブリッド車購入資金に対して資金を再充当する必要はないことが投資家との対話の中で確認されている。

調達資金の追跡管理:

- [X] グリーンボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。
- [X] 未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。
- [ ] その他

追加開示事項:

- [ ] 新規投資への充当のみ
- [ ] 個別の支出に充当
- [ ] 未充当資金のポートフォリオバランスを開示
- [X] 既存・新規投資両方への充当
- [ ] ポートフォリオベースの支出に充当
- [ ] その他

4. レポーティング

本項目に係るコメント欄：

a. 資金の充当状況に係るレポーティング

イチネンホールディングスは、調達資金の全額をグリーンプロジェクトに即時充当予定であることを私募債の契約書等にて投資家に対して開示予定である。開示内容には、①グリーンプロジェクトの概要、②充当した資金の額、③期待される環境改善効果が含まれる予定である。
仮に本私募債の償還期限までに対象車両の売却などによって対象資産残高が減少した場合でも、同等のCO2排出量基準を満たすハイブリッド車を多数保有しているため、新たなハイブリッド車購入資金に対して資金を再充当する必要はないことが投資家との対話の中で確認されている。

b. 環境改善効果に係るレポーティング

イチネンホールディングスはグリーンプロジェクトによって削減されるCO2排出削減量（理論値に基づく年間総量予測）を私募債の契約書等にて投資家に対して開示予定である。
イチネンホールディングスは本私募債についての環境改善効果にかかるレポーティングを発行当初に１回のみ行う予定である。

資金使途のレポーティング:

- [X] 個別プロジェクト・ベース
- [ ] プロジェクトのポートフォリオ・ベース
- [ ] 個別債券への紐づけ
- [ ] その他

レポーティング情報：

- [X] 充当金額
- [ ] 投資額に占めるグリーンボンドによる資金充当の割合
- [ ] その他:

頻度:

- [ ] 年に一度
- [ ] 半年に一度
- [X] その他:　発行当初に1回のみ行う。

インパクトレポーティング:

- [X] 個別プロジェクト・ベース
- [ ] プロジェクトのポートフォリオ・ベース
- [ ] 個別債券への紐づけ
- [ ] その他

頻度:

- [ ] 年に一度
- [ ] 半年に一度
- [X] その他:　発行当初に1回のみ行う。

レポーティング情報（理論値または実績値）：

- [X] GHG 排出量 / 削減量
- [ ] エネルギー削減量
- [ ] 水使用削減量
- [ ] その他ESG指標

開示方法

- [ ] 財務諸表における公表
- [ ] サステイナビリティレポートにおける公表
- [ ] アドホック（非定期）刊行物における公表
- [X] その他:
  契約書等における投資家への公表
  ウェブサイトにおける公表
- [X] レポーティングの外部レビュー

有用なリンク

イチネンホールディングスの環境・CSRに係る取り組み	https://www.ichinenhd.co.jp/environment/
JCRのグリーンファイナンス評価手法	https://www.jcr.co.jp/greenfinance/

外部レビューを受けた場合、その種類

- [ ] セカンド・オピニオン
- [ ] 認証
- [ ] 検証
- [X] スコアリング/格付け
- [ ] その他:

レビュー提供者:　株式会社　日本格付研究所

公表日:　2019年9月30日

グリーンボンド原則に定められた、独立レビュー業者の役割

1. **セカンド・パーティ・オピニオン：**環境に関する専門知識を持ち、発行体から独立した機関は、セカンド・パーティ・オピニオンを出すことができる。そのような機関は、グリーンボンドフレームワークに関する発行体のアドバイザーからの独立性や、情報障壁など適切な手順を機関内に設け、セカンド・パーティ・オピニオンの独立性を保証することが必要である。セカンド・パーティ・オピニオンは通常グリーンボンド原則への準拠に関する評価を伴い、特に、発行体の包括的な目標、戦略、環境に関する持続可能性に関する方針および（または）プロセスおよび資金使途となるプロジェクトの環境に関する持続可能性の評価が含まれる。

2. **検証：**発行体は、ビジネスプロセスに関するおよび（または）環境基準についての設定された基準に関する第三者検証を受けることができる。検証は内部または外部基準または発行体による目標に沿っているかにフォーカスする。また、対象資産の環境に関する持続可能な特徴の評価は"検証"と呼ばれ、外部基準を参照することができる。発行体の資金管理、グリーンボンドによる調達資金の配分に関する内部追跡システム、環境へのインパクトまたは、グリーンボンド原則への準拠に関する保証または証明も"検証"と呼ぶことができる。

3. **認証：**発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、認識されている外部グリーン標準・ラベルの認証を受けることができる。標準またはラベルは、特定の基準を定義し、その定義は認証基準に沿っているかを証明できる能力を有し、認定された第三者機関によって、その基準に沿っているかどうかを検査される。

4. **グリーンボンドスコアリング・レーティング：**発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、スコアリング・レーティング手法を有している専門調査会社や格付機関といった第三者によって評価もしくは調査されることができる。成果物は、環境改善のデータ、グリーンボンド原則に準じたプロセスまたはその他2度目標などのベンチマークにフォーカスしたものが考えられる。スコアリング・レーティングは、重要な環境リスクを反映しているとしても信用格付とは明確に異なる。